

自立活動における 主体的な学習を目指す取り組み

宮城県立視覚支援学校

教諭 鈴木 いつみ

はじめに

自立活動の目的：主体的に困難を克服する力を育成

本事例の焦点：主体的な学び × 補助具活用 × 自己理解

仮説（研究の問い）

○課題をタイムリーに扱うことで、主体的な学びが深まるのではないか？

○見え方を整理し、補助具を納得して選ぶことで、より学びや生活に生かせるのではないか？

生徒の概要

中学部2年 女子

視力：右0.02 左0.03 中心暗点

墨字・点字併用、UDブラウザで白黒反転活用

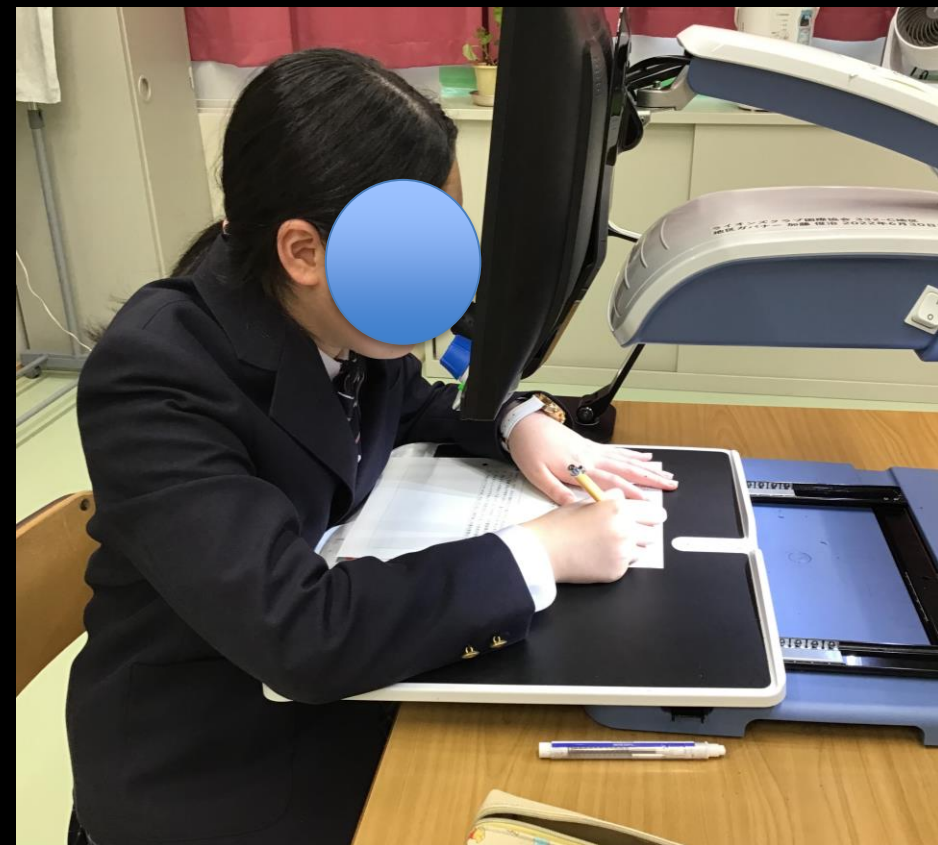
学習意欲が高く、チャレンジする姿勢

実践① 文字サイズの調整

- ・ 22P → 12Pでも読めると実感
- ・ プリント枚数が減り、効率が向上
- ・ 「できた!」という喜びが大きな転機になった

実践② 補助具の整理

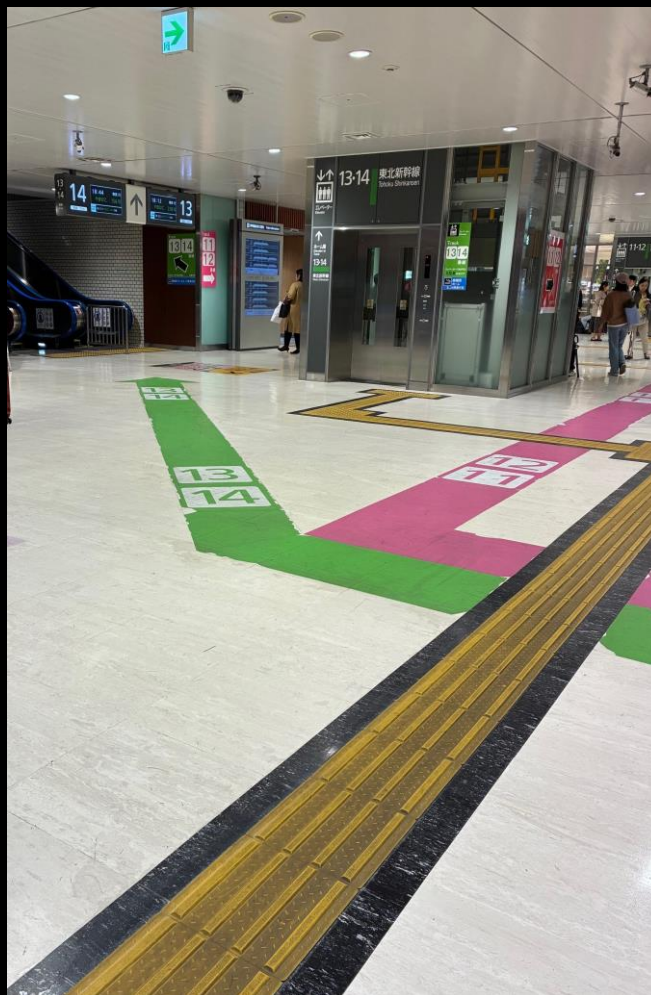
- ・ 拡大読書器 ○
 - ・ ルーペ・単眼鏡 ×
- (使えない理由を理解→自信に)



実践③ 歩行と色の活用

- 色やランドマークを意識して歩行
- 仙台駅での経験→友人関係にも広がり
- 「こわい」から「楽しい♪」へ変化

実践③ 歩行と色の活用

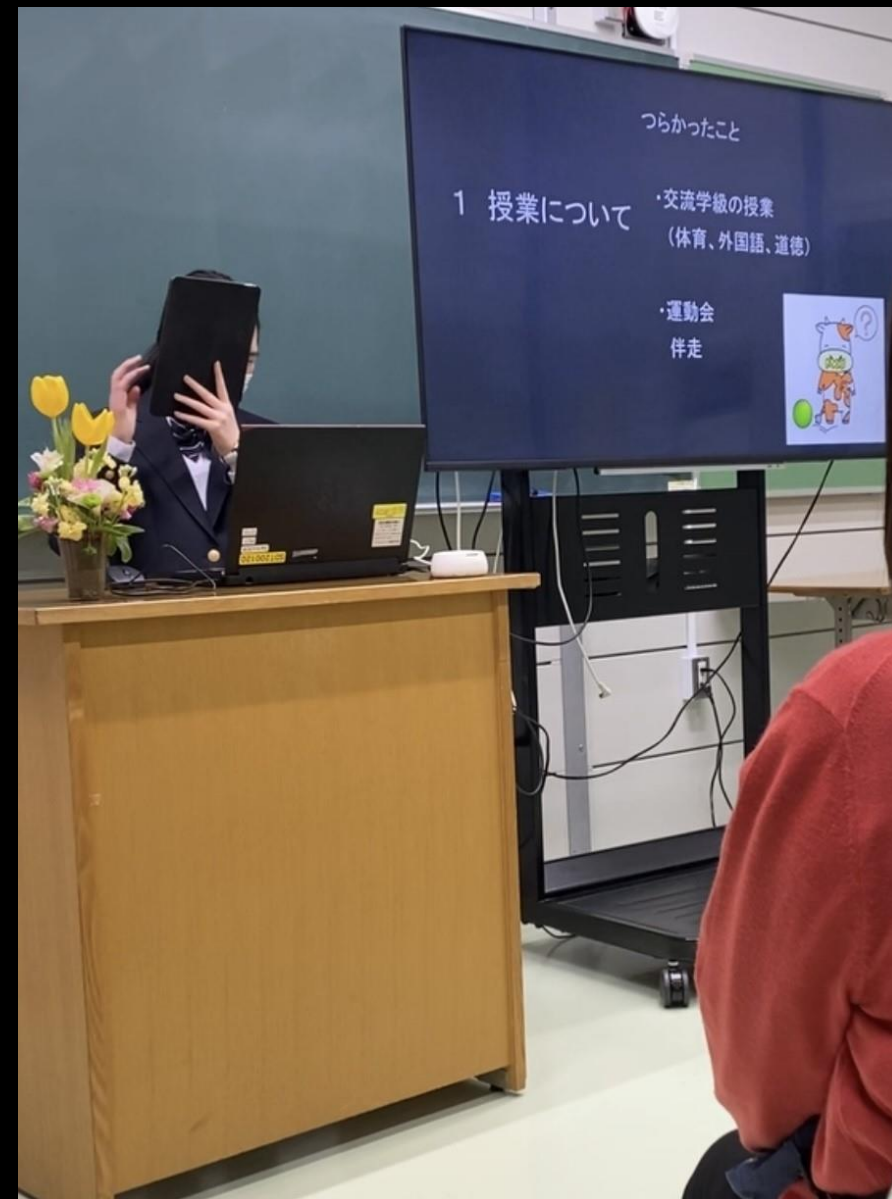


実践③ 歩行と色の活用

- 色やランドマークを意識して歩行
- 仙台駅での経験→友人関係にも広がり
- 「こわい」から「楽しい♪」へ変化

実践④ 自己理解の深化

- ・ 自分の見え方・支援を説明できるように
- ・ 「できない→挑戦したい→楽しい」と変化



実践④ 自己理解の深化

視覚支援学校にきて変わったこと

1授業について

- ・プリントの文字のサイズやフォント
- ・体育の内容
- ・自立活動が充実

「小学校と現在を比べて」生徒の発表資料より抜粋

成果

- ・ 主体的な学びの姿：確認・整理・挑戦・活用
- ・ 自己肯定感が向上
- ・ 生活や将来への意欲が高まった

チーム支援（本校の強み）

- ・ 担任・寄宿舍・点字指導・視能訓練士
- ・ 教諭B（自立活動）が全体を包括しコーディネート
- ・ 専門性が重なり合い「主体的な学び」を支える

チーム支援

自立活動委員B

担任A・C

自己理解
歩行

点字
補助具

点字指導D
視能訓練士CO

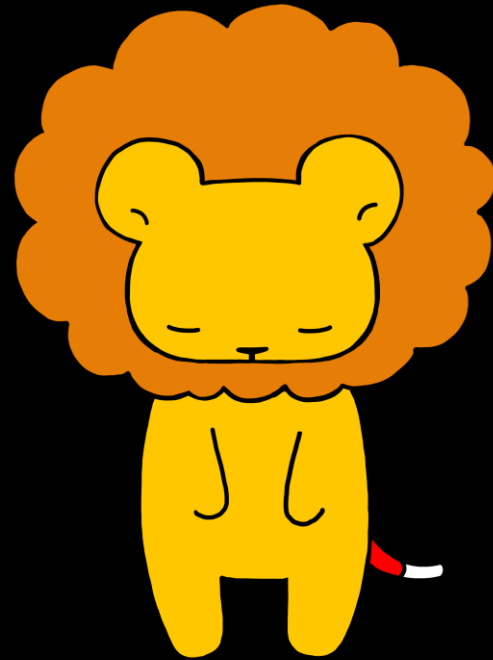
生活
歩行

寄宿舎指導員E
(歩行訓練士)

考察・まとめ

- ・ 補助具は「使えるかどうか」ではなく、
本人が納得して選ぶことが重要
- ・ 自己理解を基盤にキャリア教育へ接続可能
- ・ チーム支援の強みを今後も生かす

ご清聴ありがとうございました



ありがとう
ございました